

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



タンボンガ村の女性が用意してくれた現地料理トー(左)とオクラソース(右)。
トウジンビエのトーは手間がかかるため、家庭でしか食べられない貴重な味。

気は心…

近頃、物騒な事件によりマイナスイメージが先行しがちですが、滞在中は何かとブルキナベ（ブルキナファソの人々）の温かさ・心意気に触れる機会があります。

昨年、村を訪問した際、いつものように話合いを終えて席を立とうとすると、一人の女性が手招きするので後をついて作業小屋の中へ。すると、ブルキナファソの国民食トー（穀物を粉末状にしてお湯で練り上げた料理）とソースが準備されていました。前月の調査で食生活の話題になり、「トウジンビエのトーを、見たことも食べたこともない。」と言ったのを、覚えていてくれて作ってくれたそうです。思いがけないサプライズに感激しながら口にしたトーは味わい深く、村特製の発酵調味料が入ったソースとの相性は抜群でした。

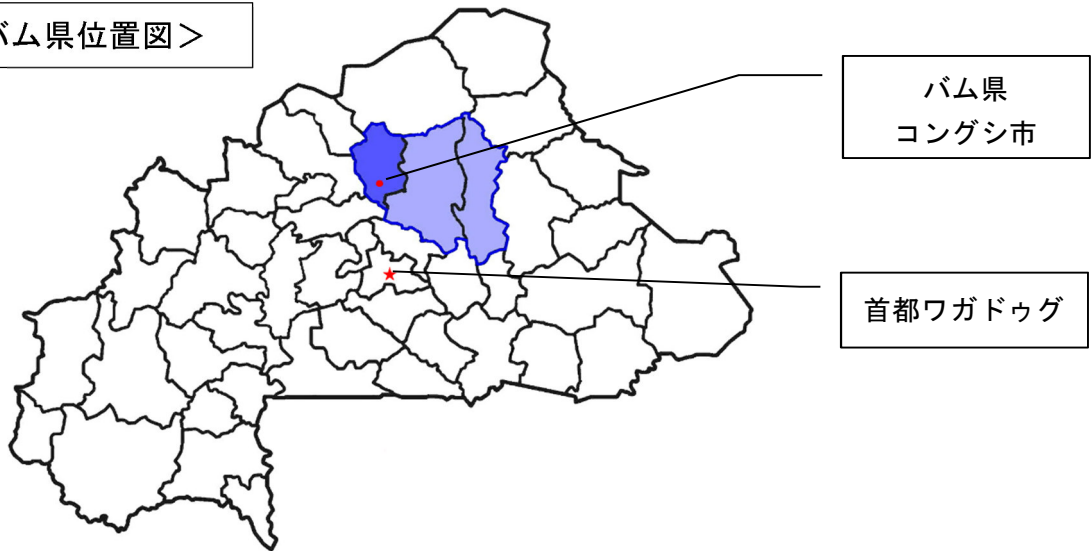
また近所では、前を通るといつも元気に声をかけてくれる屋台の女性。ある日、「うちのも食べてみて。」と出来立てのお菓子を無造作に紙に包んで渡されました。少しばかりの御礼をすると、今度は「帰国する日の朝、前を通りなさい。」とのこと。そして後日、しばしの別れの挨拶をしに立ち寄ると、袋いっぱいに入ったお菓子を手渡ししながら「向こうのみんなで食べて。ご家族によろしく。道中は神様が見守ってくれているからね。」

万国変わらぬ人情味に、田舎のおばあの口癖「気は心」を思い出すのでした。

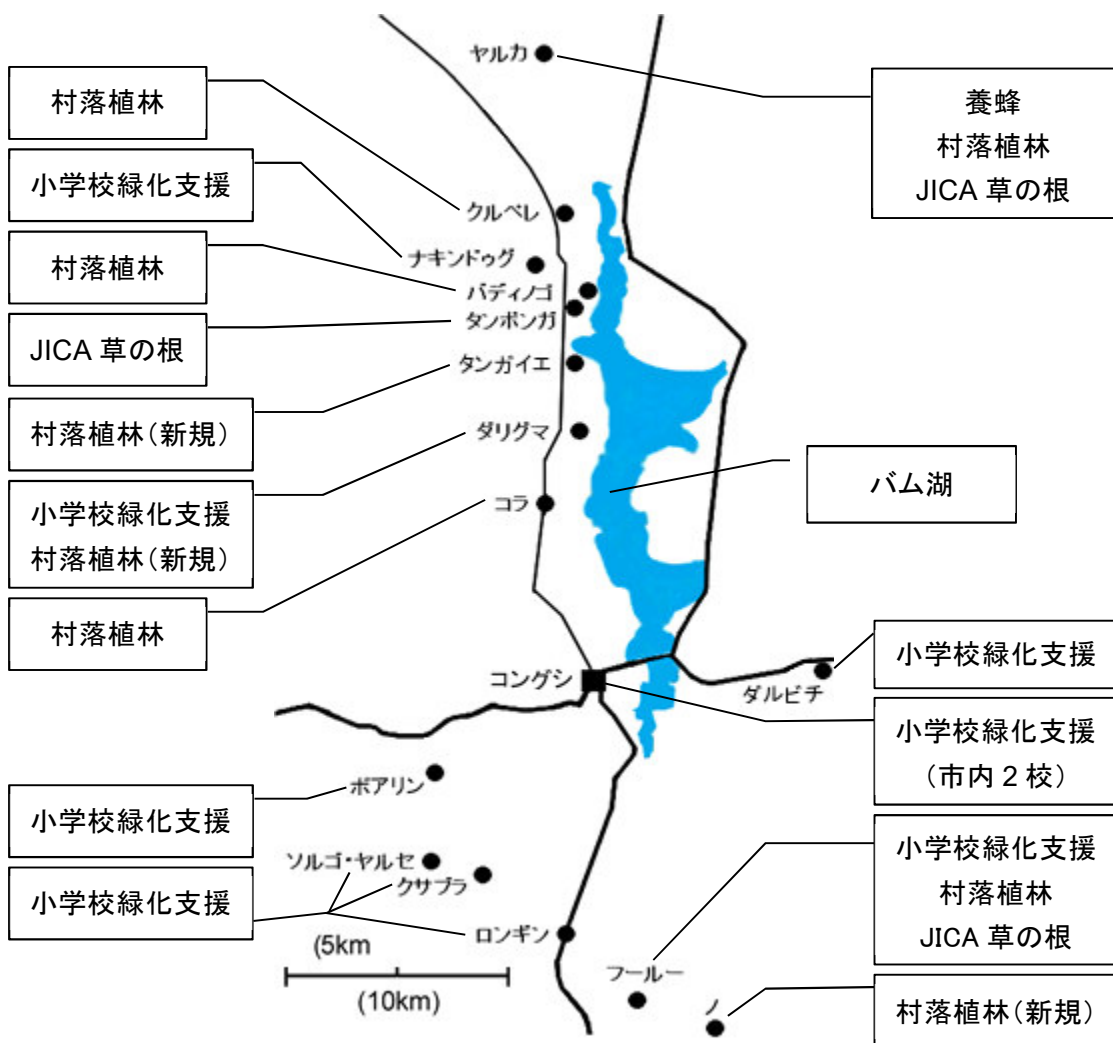
緑のサヘル/現地調整員 大谷恵美

ブルキナファソの活動地域図

<バム県位置図>



<バム県コングシ地域活動実施村位置図>



ブルキナファソから 1



ブルキナファソでは、5月17日から、イスラム教のラマダン月（断食月、イスラム歴第9月）が始まりました。期間は30日ほどですが、太陰暦に従っているため、毎年11日ほど早く始まります。今年は、乾季の最盛期と重なってしまいました。住民には、昨年よりも厳しく感じるかもしれません。

JICA 草の根技術協力事業

<養蜂>

フルー村で行なわれている、養蜂箱を用いた蜂蜜生産・販売活動ですが、蜂蜜の採取時期を迎えています。

当初は、設置した養蜂箱にミツバチがなかなか巣を作ってくれず、気をもみました。現在では、設置している養蜂箱全てに（大30箱、小10箱）、ミツバチが営巣しています。

1月から4月までに、21リットルのろ過蜂蜜と136缶（小缶90、大缶46）の巣付き蜂蜜が採取されました。ミツバチはいろいろな花から蜜を集めるため、蜂蜜の色はやや濃い目ですが、どっしりとした味わいです。



昨年試験的に導入した、側面がガラス張りになった養蜂箱。（フルー村）

採取された蜂蜜はすべて販売され、すぐに完売してしまいます。1月から4月までで、101,250cfa（約20,250円）の現金収入になりました。身近な資源を活用した現金収入手段として、定着しています。

<ブリ（貯水池）囲い>

フルー村は、バム湖に面していません。村には、ブリと呼ばれる素掘りの穴があり、雨季の降雨時に生じる表流水を溜め、生活用の水場として利用しています。

堆肥を作る際にもブリの水を使用するため、作製量が増えると生活用の水としての使用量を圧迫する可能性があります。

このため、2015年に、ブリの掘り下げを行ない、貯水能力の増加を図りました。ただ、住民から「ブリの周囲に囲いがいないため危険だ」との指摘を受けていました。早急に対応したかったのですが、なかなか実行できませんでした。

幸いにも、今年の雨季前に設置できる目途がつき、4月25日から5月14日にかけて、作業が行なわれました。



ブリ（貯水池）への入り口。乾季のため、水は溜まっていません。（フルー村）

ブルキナファソから 2



小学校緑化支援プロジェクト(第2期)

バム県内の10校を対象に実施しているプロジェクトですが、2017年に行なわれた植栽活動に対する評価が実施されました。

評価を行なったのは、環境局と教育局の職員、および協力団体であるAJPEEの普及員から構成された4名のチームです。

5月8～9日にかけて実施され、成育本数だけでなく、管理方法や活動への参加状況(生徒、保護者と教師)についても調査し、小学校としての取り組みを総合的に評価しました。

その結果、10点満点で8.75を記録したダルビチ小学校が、第1位に選ばれました。ダルビチ小学校は、ヤルゴ小学校の交代として2017年から参加した小学校ですが、初年度で第1位になりました。この取り組み姿勢を継続してほしい、と思います。



取り組みが高く評価されたダルビチ小学校の方々(教師、生徒、校長)。

チャドから



厳しい食料事情が表面化してきました

収穫後もない時期から、3月以降の食料事情の悪化が懸念されていましたが、実際に厳しい状況になっています。

予測されていたとおり、家庭に備蓄されていた穀物が少なくなってきたこと、かつ市場で売られている穀物の販売価格が上昇していることが理由です。

さらに今年は、燃料代の上昇や輸送業者のストライキ等が加わり、市場への穀物供給に停滞が生じています。家庭における備蓄量の減少がより進んでいる地域(中央部の4州)への流通量も減っており、困難な食料調達の状況を深刻化させる要因になっています。



プロジェクトを行っていたトゥルバ村の市場の様子
(2004年)

まだ飢饉の恐れはありませんが、注意を要するきわどい状況になっています。

国内活動



今期は、東京の港南小学校と神戸大学でお話しさせていただきました。神戸大学は昨年に続いて2回目でしたが、講義終了後も多くの学生から質問をいただく等、熱心な姿勢が印象的でした。また3月28日の設立記念日をもって、「緑のサヘル」の活動は27年目を迎えました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

2月	2日(金)	港区立 港南小学校 講演	講師	(菅川)
		「アフリカの子供たち」(3年生 197名)		
3月	20日(火)	「途上国森林再生事業 第3回 運営委員会」	出席	(岡本)
		(主催：公益財団法人 国際緑化推進センター)		
	28日(水)	緑のサヘル 設立記念日	—	—
4月	15日(日)	2018年度 理事会・正会員総会	開催	(事務局)
	26日(木)	神戸大学 国際人間科学部 講義(1年生 約390名)	講師	(菅川)
		-国際援助論- 「アフリカ乾燥地域の現状とその対策」		

理事・正会員総会の開催

4月15日、「緑のサヘル」東京事務所において、今年度の「理事・正会員総会」が開催されました。この会議には、当団体の運営に責任を持つ正会員、理事・監事等の役員が出席し、2017年度のプロジェクトに対するチェックと承認、2018年度プロジェクトに対する検討と決定、役員人事の改選等が行なわれました。以下はその要旨です。

【2017年度の活動と収支】

「小学校緑化」は10校を維持、計450本の苗木を植栽しました。「村落植林」は3村が新たに加わって計8村で実施、計12,780本を植栽しました。「食糧増産」は3村が実施、石堤を設置した畑は57%、堆肥を入れた畑は95%の収穫増となりました。「収入向上」は2村が養蜂、3村が家畜飼育と搾油活動に取り組み、各々利益を上げることに成功しました。

しかし収支においては、会費・寄付の低迷、民芸品・カレンダー販売の不振による収入の減少、送金レートの変動、支援村の増加等による支出の増加によって、法人化以降では初めてとなる単年度赤字を計上してしまいました。これにより、前年度からの繰越金も減少することになりました。

【2018年度の活動と収支】

一般からの会費・寄付、企業からの活動委託の減少傾向は継続すると思われ、既に徹底した経費節減を実行しています。現地の活動もこうした状況を鑑み、現状維持を基本として新たな支援には着手しません。国内においては、これまで以上に正会員、役員が積極的に関わり、ホームページやSNSの有効活用による新たな支援者の獲得、教育機関や国際交流協会等、既存の関係の強化、出版物やロゴTシャツの製作・販売の可能性等、活動資金の確保に努めることになりました。

【役員の改選】

全ての正会員が継続を了承し、理事・監事等、役員についても全員が任期(2年間)の更新を承諾しました。また引き続き、岡本敏樹氏を代表理事とすることを満場一致で決定しました。これによって今後2年間、現在の体制が続くことになり、安定した団体運営と活動資金の確保が実現目標として課せられることになりました。



緑のサヘル 2018年 雨季キャンペーン

〈 雨季が始まりました。〉

「緑のサヘル」が活動しているブルキナファソでは雨季が始まっています。雨季は年によって多少の違いはありますが、だいたい6月から雨が降り始め、9月終盤まで続きます。雨季は農繁期でもあり、人々は豊作を願いつつ一日の多くを耕作地で過ごします。

〈 雨季は活動が集中します。〉

雨季は、村々の方々と「緑のサヘル」による様々な活動が本格化する時期でもあります。6月には耕作地への堆肥入れ、7月には小学校への苗木の配布と植栽が行なわれます。耕作地を侵食から守るためのチガヤの植え込みも7～8月に行なわれますし、「養蜂」も「搾油」も花が咲き、実になる雨季が中心の活動です。また、今年はイスラム教の重要なお祭りである「犠牲祭」が8月にあり、飼育したヒツジを売って利益を上げる「家畜飼育」活動にとっては稼ぎ時でもあります。



村々での苗木の植栽。



石堤沿いに植えられたチガヤ。



絞った油で作った石鹸。

〈 活動資金が不足しています。〉

1年の中でも最も活動が活性化する雨季ですが、その分活動資金も必要になります。ところが残念なことに、「緑のサヘル」では会費や寄付の減収が続いており、このままでは全ての活動を実施するのは難しいというのが実情です。

〈 ご支援をお願いします！〉

現地の方々は農繁期にも関わらず、時間や労力をやり繰りしながら、熱心に活動に取り組んでいます。「緑のサヘル」は、その頑張りを応援し、取り組みを支えるために「雨季キャンペーン」を実施し、皆様からのご支援を募ることにしました。どうぞ、よろしくお願いいたします！

ご支援は「郵便振替口座 0012 - 7 - 419488」まで。

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 継続会員のみなさま 】

石山俊／瀬戸進一／山田規矩子／澤井温子／碓井道子／青山初穂／大池良平／菊地滋夫
那口真理子／ムケ／塩沢拓夫／新海真理子／林裕之／西田陽子／岩永孝子／玉岡昇治
株式会社ホーム創建
他 匿名をご希望の方 1 名

【 ご寄付を頂きました 】

青柳美知子／大段紀代子／大段るみ子／奥康功／小野晶子／神野潤子／佐伯利恵
東海林茂子／高瀬光代／田中節朗／谷村泰子／富谷晋／花垣末男／花垣正／山田規矩子
賀川麻衣／内藤秀誠、真子／三浦敦／碓井道子／松田曜子／佐羽内七瀬／佐羽内淳子
小池昌子／榎本みつ枝／村上和代／水口佳美／高橋菜々子／太田宜子／加藤治郎
木嶋清江／加藤均／ムケ／佐藤裕美／森田康子／赤山孝子／赤山美苗／佐藤京子
清水貴夫／佐々木順平／大久保久美子／瀬戸進一／岩永孝子
個別教育フォレスト安多秀司
他 匿名をご希望の方 2 名

【 BOOK募金を通じてご寄付を頂きました 】

小笠原弘子／齋藤セイ子
他 匿名をご希望の方 3 名

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

一関市立東山中学校／佐々木順平／大池良平／港区立港南小学校／坂井真紀子
他 匿名をご希望の方 1 名

上記は 2018 年 2 月 1 日から 4 月 30 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、5 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構(JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(公社)国土緑化推進機構)／(公財)国際緑化推進センター
ジャパンギビング／アフリカ料理 トライブス／gooddo(株)
(株)プレジャーワークス／(財)農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校
(特活)国際協力 NGO センター／(特活)環境アリーナ研究機構
URBAN GREEN MAKERS (株)アールオーエヌ／ソーシャルアクションリング
(財)環境メディアフォーラム／かざして募金 ソフトバンク

【 写真を提供しました 】

(株)日本入試センター『小学生対象学習塾「サピックス小学部」塾内教材

「緑のサヘル」からお知らせ

サポートスタッフ募集!

「緑のサヘル」は現在、東京事務局の業務を手伝って下さる方を募集しています。

(内容) ホームページ、フェイスブックの更新。

(条件) 交通費(実費)のみ。

(場所) 東京事務所またはご自宅。



ご連絡は下記まで!

お電話: 03 (3252) 1040

メール: agsj_tokyo@sahelgreen.org

【 もくじ 】

- | | |
|-----------------|----------|
| 1..表紙 | 5..国内活動 |
| 2..ブルキナファソ活動地域図 | 6..事務局より |
| 3..ブルキナファソから 1 | 7..ありがとう |
| 4..ブルキナファソから 2 | 8..お知らせ |
| チャドから | |

< スタッフよりひと言 >

●10年暮らしたワンルームから、賃貸一戸建てに引っ越しました。2日がかりの作業で、スタッフや関係者が手伝ってくれました。本当に助かりました。(岡本)

●先日、年金の受給手続きに行って来ました。まさか自分がそんな年齢まで生きられるとは思っていなかったもので、何だか不思議な感じです。(菅川)

●コウモリの超音波をキャッチして人間に聞こえる音にするバットディテクターを手に入れました。夕方、これでコウモリを確認するのが楽しみ。ぜひブルキナファソでコウモリキャッチしたいです。(本所)

●ブルキナファソ事務所の現地人スタッフからヒナ誕生の嬉しい知らせが届きました。間もなく始まる雨季を乗り越え、順調に育つことを願うばかり。次回の出張で、家族に会えるのが楽しみです。(大谷)

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

♪ メニューがリニューアルしました ♪

ハケ岳農場の特産品

「ハケ岳中央農業実践大学校」の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々。おなじみのチーズ・アイスクリーム・カレーに、卵・乳製品が加わりました。送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに
定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00120-7-419488「緑のサヘル」

お振り込みからお届けまで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	4,644	4,752	4,860	4,968	5,076	5,616
B	3種アイス 10個	4,968	5,076	5,184	5,292	5,400	5,940
C	アイス6個	3,564	3,672	3,780	3,888	3,996	4,536
D	チーズ3種	4,536	4,644	4,752	4,860	4,968	5,184
E	カレー2箱/ チーズ5種	6,048	6,156	6,264	6,372	6,480	7,020
F	ヨーグルト/ 牛乳	2,916	3,024	3,132	3,240	3,348	3,888
G	カレー6箱	4,320	4,320	4,536	4,644	4,752	5,292
H	青卵12個/ ジャム2種	3,996	4,104	4,212	4,320	4,428	4,968
I	赤卵30個	1,728	1,836	1,944	2,052	2,160	2,700
J	アイス20個	7,668	7,776	7,884	7,986	8,100	8,964

※カレーは現在、甘口のみのご注文となっています。

内容の詳細をご希望の方は、事務局まで
ご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie!

Vol.74

編集 岡本敏樹 菅川拓也 本所雅佳江 大谷恵美 /印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 NASビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041